

2019
秀作

第52回「おかねの作文」コンクール

お金の使い方の多様性

千葉県・千葉大学教育学部附属中学校 2年 萱原 千尋

「私、お金が大好きです。」

テレビで、女性のタレントが、そう言っていた。私は、少し驚いた。これまで「お金」を「好き」だなんて、一度も、考えたことも思ったこともなかったから。でも、それなら「嫌い」な人もいるのだろうか。中学生になってから、少しずつ、「お金」が身近なものになってきていることを感じていた私は、自分にとって「お金」とはどのようなものなのか考えてみることにした。

物心ついてから小学生の頃くらいまでは、祖父母からお小遣いをもらっても、「自分がもらった」ということがうれしくて、「お金」だからうれしいというわけではなかった。むしろ、自分の欲しかった玩具や本などをもらった方がうれしく思っていたかもしれない。

でも、中学生になってからは、「お金」に接する、関わらざるを得ない場面が増えてきた。部活動での遠征、友人との交際、自分一人での外出など、行動のかたちも様々になって、範囲もどんどん広がってきた。

それと共に「お金」の使い方も変化している。最初は、何か物を購入することが多かった。自分の気に入ったノートやCD、好きなキャラクターの小物……。初めて、自分のお財布からお金を出して支払った時の気持ちは忘れられない。

次に、物ではないことにお金を使うことが多くなったように思う。例えば交通費だ。これまでは、親と一緒にの外出がほとんどだったが、部活動や友人達との外出で交通費が必要になったのだ。友人との交遊もそうだ。休日などに一緒に、映画を観たり、お茶をしておしゃべりしたり楽しい時間を過ごす。モノではなく、経験することに「お金」を使う。だんだん成長していくにつれて、「記念」になるものは、モノだけじゃないな、と思うようになった。

振り返ると、段々と「お金」の使い方が多様になっているように思う。「お金」

そのものは何も変わらないのに、自分の成長にともなって「お金」の使い方が変わってきたことで、私の「お金」への意識や価値観が変わってきたのかもしれない。

また、私の「お金」に対する価値観が変わる大きな出来事があった。

私はこの夏、祖父から「2時間、アルバイトをしない？」と言われた。もちろん面白がりの祖父の冗談だが、祖父の家の庭の草むしりを依頼されたのだ。近隣に住んでいる祖父とは頻繁に会っているし、夏休み期間中ということもあって、さっそく、手伝いに行くことにした。

私は、「2時間ぐらいなら余裕だろうな」なんて軽い気持ちで行ったのだが、真夏の日中、暑い中での草むしりは思った以上に重労働だった。あまりの暑さで、作業していてもみな段々と無口になってしまう。2時間がたつ頃には、全身汗びっしょり、思考が停止していた。でもひたすら2時間草をむしり続け、何とかやり終えた。

シャワーを浴び、冷房の利いた涼しい部屋で冷たい飲み物を飲みながらのんびりしていると、祖父が「ご苦労様、これはアルバイト代。」とポチ袋を渡してくれた。どうも祖父は中学生になった私に、労働して「お金」を得ることの疑似体験をさせて、考える機会を作ろうと思ってくれていたようだ。

そして、「お金」に対する価値観がまた変わったような気がした。私は「お金」を得ることについて、その大変さを身をもって感じる事ができたように思い、祖父に感謝した。

「お金」は社会で生きていくために必要なものだ。私にとって「お金」とは「好き」とか「嫌い」ではなく、「必要」で「大切」なものではないか、と考えるようになった。

大人になるにしたがって、「お金」の使い方はもっと多様になるだろう。これからますます、真面目に、真剣に、「お金」と向き合っていきたい。

